

カブものがたり

二本松市立川崎幼稚園（福島県二本松市）〔4歳児～5歳児〕

<変な物体発見！>

4歳児3月、A児が小学校の畑で、紫色で草のような？花のような？“変な物体”を見つけた。それを見聞きした保育者は、変わった形に本当に驚いて、珍しいので大切にクラスに持ち帰り、水に入れておいた。すると、どんどん葉や茎が伸びてきた。

5歳児4月、A児がさくら組（5歳児学級）になった時、変な物体は黄色い花を咲かせた。小学校の畑に行くと同じ花がたくさん咲いていた。根っこの部分が土の上に出ていて、丸くて白いカブと赤いカブの両方から茎がすくすく育っていた。A児の発見した“変な物体”は、この日から子どもたちに“カブ”と呼ばれようになる。



<カブには不思議がいっぱい>

A児の発見したカブは、畑のカブのようには育たず、花が散ったらどんどん元気がなくなってきた。カブはクラスの子もたちの仲間！いろいろなことを子どもたちに教えてくれた。



Aちゃんが見付けた、“変な物体”の正体は、“カブ”だったんだ！だって、畑のカブと同じ花がいっぱいだよ！

水だけだから大きくななんないんだ。水は冷たくて土は暖かいから！

これ、種かな？

え～これ枝豆？食べられんのか？

それとも、唐辛子？

<種がはじけて>

5月下旬、畑のカブが枯れてきて種がはじけていた。B児の「埋めてみる？」の言葉にみんな大賛成！小さな種を植えることになった。地域の方に教えていただき、種は黒いポットに撒いた。



やっぱり、種って不思議だね！一回埋めてみる？



多分、枯れて割れるんだ。

たくさん並んでる緑色の種は、柔らかくて、黒いのは堅い。



中にいろんな色の種が入ってる。

自分で割ったんじゃない？

<カブ畑に引っ越し>

その後、小学校の職員の方が「土の中にできる野菜は種から畑に撒く」ということを教えていただいた。

6月中旬、変な物体の種から発芽した芽と小学校の畑で採取した種を畑に植えた。

みんなで雑草取りをしたり、虫対策を施したりしながら大切に育てた。

<考察>

- 幼児の気付きや発見を見逃さないことの大切さを感じた。特に、A児のように、登園不安な子の気付きや普段目立たない子の発見を取り上げたことで、その子どもの変容や成長につながったと思われる。
- すぐに答えを出さず疑問に思う気持ちを大切にすることで、ひとつの“なぜ”が、次の活動への引きがねとなり、たくさんの不思議を解決していく力となっていった。
- 長期にわたる栽培の共通経験がクラス全体に浸透していった。一人一人の幼児が自分の気付きを伝える喜びと、友達の気付きを聞き、受け入れて共に感動する充実感を味わう事ができた。また、その日がターニングポイントと感じたら、機会を逃さずに子ども同士でたくさん意見を出し合うなど、みんなで共有することも「科学する心」を育てていくには必要な援助であると感じた。

みどころ 一人の子どもの小さな発見が友達へと広がり、一つの気付きが次の発見や不思議な事象との出会いにつながるなど、子どもたちの体験の深まりが見えてきます。たくさんの“不思議”との出会いにより、今までの経験を振り返って今の事象と結びつけたり、新たな気付きや発見をしたりする経験は「科学する心」の育ちにつながる事が期待できます。